

今日もたべた？本ごはん

とうごうしょうがっこう とうしょかん へいせい ねん がっこう
東郷小学校 図書館だより 平成27年 7月号

めざせ目標冊数！



つゆ あ ま ころ

梅雨明けが待たれる頃

つゆ あ ちか ひ ざ つよ ほんかくてき なつ
梅雨明けが近づくと、日差しもだんだん強くなり、本格的な夏がやってきます。

な ごえ き ころ がつなのか たなばた にじゅうしせっき
セミの鳴き声も聞こえはじめる頃ですね。7月7日は七夕ですが、二十四節気の

しょうしょ ひ しょうちゅう しょうちゅう み ま だ
“小暑”。この日から“暑中”となり、暑中見舞いが出せます。もうすぐ待ちに

ま なつやす ことし なつやす にちかん なが なつやす どのしょ
待った夏休み。今年の夏休みは45日間です。長い夏休みは“読書”のチャンスで

よ なが ものがたり ほん ちょうせん
す。いつもは読めないような長い物語や、ちょっとむずかしい本に挑戦してみ

ことし なつ せんご ねん わか こんげつ せんそう ほん
くださいね。今年の夏は戦後70年を迎えます。「今月のいいね！」は、戦争の本を

とくしゅう かぞく よ
特集します。ぜひ家族で読んでみてください。

がっき にほん どうようきょうかい おも で ばなし き たの
2学期にみなさんのたくさんの思い出話が聞けることを楽しみにしていますよ。



7月1日 どうよう ひ どうわ ひ
童謡の日・童話の日

ねん たいしやう ねん ひ どうわ どうよう そうさく さいしよ ぶんがくうんどう すずき み え きち じ
1918年(大正7年)のこの日、童謡と童話を創作する最初の文学運動として、鈴木三重吉が児童雑誌『赤い鳥』を創刊しました。

に ほん どうようきょうかい ねん せいいてい きねん び
このことにちなんで、日本童謡協会が、1984年に制定した記念日です。

いま こ どもたち に した どうわ に い み なんきち あくたがわりゆうのすけ く も
今も子どもたちに親しまれている童話—新美南吉の「ごんぎつね」や芥川龍之介の「蜘蛛の糸」、童謡—西条八十の「かなりや」、北原白秋の「ゆりかごのうた」などの作品が掲載されました。



きょうは、
なんの日？



お知らせ

なつやす としよしつ やす ひ まいしゅうかようび
夏休みまでの図書室お休みの日：毎週火曜日と8日

がっき ほん か だ び
1学期の本の貸し出しは **7月6日(月)まで** です。

がっき ほん か だ び
1学期に借りた本は **7月9日(木)までに** 返してください。

※7月7日(火)～14日(火)までは本の貸し出しはありません。

なつやす ほん か だ び
夏休みの本の貸し出し日 **7月15・22日・8月3・14・21・28日**

なつやす ほん か だ じかん
夏休みの本の貸し出し時間 **10:30～12:00 と 1:30～4:00**

ひとり **5さつ** まで

≪8月3日・21日(出校日)は**下校時間までに**借りましょう。≫



7月の詩

うた

声に出して読むと
なんかおもしろい！

あさ おひさまは
まっとうに
あさがおの
つぼみのとろろにいく
あさ おひさまは
「おはよう」と
あさがおの つぼみをなでる
つぼみ ふっくら ふっくら
ふっくら ふっくら
ふっくら……
あさがおの つぼみから
まぶしい「なつ」が
うまれた

くどうなおい
工藤直子
『のはらうた』より

なつのはじまり
あさがおりようこ



7月 今月のいいね！

し 知 っ て ほ し い に ほ ん 日 本 で あ っ た 戦 争 の こ と 。

～ 今月は戦争に関する本を集めました ～



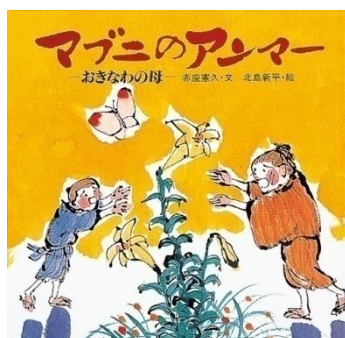
『おかあさんの木』
大川悦生 作/箕田源二郎 絵/ポプラ社

7人のむすこたちがへいたいにとられるたんびに、おかあさんは、うらのあきちへ、キリの木のなえを1ぼんずつうえたー。
東京大空襲、広島原爆、シベリアの抑留、玉砕の島など、戦争が人々の心をどのようにひきまわしていたかが語られている、表題作ほか7編を収録。



『新版 ガラスのうさぎ』
高木敏子 作/武部本一郎 画/金の星社

1945年3月10日の東京大空襲で、12歳の敏子は母と二人の妹を失った。焼け跡には、敏子の家にあったガラスのうさぎが、変わりてはた姿でころがっていた。うさぎは、燃えさかる炎に身を焼かれながらも、戦争の悲惨さを見つめ続けていたのだった……。実際の戦争体験に基づいて綴った名作。



『マブニのアンマー おきなわの母』
赤座憲久 文/北島新平 絵/ほるぷ出版

一人息子を沖縄戦で亡くした母マツは、息子の骨をさがして沖縄本島の丘マブニに何年も通い続けた。その間に、戦いで亡くなったいろんな骨が無念の思いを伝える。息子の骨に再会できた時、マツは……。1985年刊の新版。



『ふたりのイーダ』
松谷みよ子 著/司修 絵/講談社

「イナイ、イナイ、ドコニモ、イナイ…」直樹とゆう子の兄妹は、お母さんのいなかの町で、誰かをもとめてコトリ、コトリと歩きまわる小さな木の椅子に出会った…。原爆の悲劇を子どもたちに語りつぐ名作ファンタジー。



『ヒロシマの歌』
今西祐行 作/遠藤てるよ 画/岩崎書店

被爆直後、赤ちゃんを助けた著者の、平和への願いをこめておくる珠玉の童話集。
広島市の被爆直後の練兵場の光景を描いた表題作「ヒロシマの歌」や「ハコちゃん」など、8編を収録。戦争の悲劇や差別問題をテーマにした物語。



『禎子の千羽鶴』
佐々木雅弘 著/学研

1945年、広島市に投下された原爆によって被爆し、10年後に原爆症を発症。12歳で亡くなるまで、弱音を吐くこともなく、周囲の人を思いやりながら千羽鶴を折り続けた、佐々木禎子さんの真実の物語を、実の兄が綴る。



『パンプキン！ 模擬原爆の夏』
令丈ヒロ子 作/宮尾和孝 絵/講談社

わたしたちの町が、原爆投下の練習台に！？
身近にあっても見過ごしていた戦争の大きな傷あとを夏休みの自由研究で調べてみると……。
1945年、終戦の年。
原爆投下の練習のため、模擬原爆・通称パンプキン爆弾が日本各地に49発も落とされていた事実を知っていますか？